

# お父さん・お母さんのための連続講座 ～ベーシック学習会2013～

ご報告



1月18日(土)10:00より札幌市社会福祉総合センター視聴覚兼会議室において、札幌ポプラ会主催学習会「お父さん・お母さんのための連続講座 ～ベーシック学習会2013～ 第2回目」が開催されました。会員限定の企画として一昨年より行っている学習会です。今回は16名が参加しました。

講師の辻山しのぶ先生からは「学校・家庭・療育の場での支援の一貫性」をテーマにお話いただきました。構造化や視覚支援の具体的な実践例はもちろん、学校の先生との上手な付き合い方など、興味深い内容に会場の皆さんは熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

その後は一階のカフェ「ふらっと」にて辻山先生を囲んで参加者の皆さんとともに役員も参加させていただき、和やかな雰囲気ランチタイムとなりました。

午後からは北翔大学 北方圏学術情報センター「ポルト」会議室に場所を移し、第3回目の交流会を行いました。参加者は午後からの参加の方も含め10名。辻山先生の進行により、子どもの将来のこと、生活のリズムについてなどをテーマに、差し入れの美味しいお茶菓子をいただきながら和気あいあいと和やかな時間を過ごすことができました。貴重な休日にお付き合いくださいました辻山先生、会員の皆様、素敵な出逢いをありがとうございました。(今西)



**参加者の皆様からお寄せいただきました感想などを掲載させていただきます。**

交流会に参加して、普段は悩み、心配として考えていた事が何かスッと消えたというか、スッキリした気がした一日でした。自分の子育てが下手なせいで、子どもたちにも負担をかけていると思って何か安心できる落ち着いた事はないかと色々考える日々でした。

辻山先生から「子どものことをわかっているのだから、どうやっていくかを考えられる。」と言われた時、私もちゃんと成長してたんだ、と思えました。

ポプラ会に初めて参加したころ、全く笑えない息子の行動につけ行けず、「笑わないお母さん」と言われたこともありました。でも、今は元気に笑えます。悩んでも、また笑えてます。辻山先生のような素敵な先生、先輩お母さんたちのおかげで、その時その時、考え方を改め、またがんばれます。

子ども達には子ども達の支援員、相談場所があり、私には私の相談場所、元気になるリセットの場がある事を幸せに思います。困ったら助けてもらっていいのだと親は私にちゃんと教えてくれたのでしょう。今はすべてがありがたいです。まだまだ、これから覚悟しながら見守っていきける親でいたいと思いました。また元気をもらいに行きます。

お忙しい中、本当にありがとうございました。

私は今回の講座は参加者数は少なかったですが、良かったと思います。参加者数が少なかったのも、結果として講師と参加者の距離は近くなったこと、また、通常ポプラの講座は「講師の先生の都合があるので今日は質問は控えてください」ということが多かったのですが、今回は講座のあと、わざわざ、講師の先生が声掛けくださり、少し相談できました。

講演内容も、学校の先生への働きかけ方など、あまり聞いたことがない内容で斬新でした。

今後も、決して高名な先生に限らず、講師と参加者との距離、従来にならぬ視点の講座の企画運営をお願いいたします。

大変 楽しくすばらしいお話でした。参加を迷っていましたが、参加できてよかったです。

辻山先生の「いつでも相談に来て」というスタンスが大変うれしかったです。

いろいろな学習会に参加しても、自分の中で迷いが出てしまって、家でどうしたら良いのかわからずにいる日々です。午後の交流会も参加して具体的にご相談できると嬉しいです。(午前の部終了後にいただいた感想より)



ほんとうに勉強になりました！ありがとうございました。時間があっという間で、辻山先生のはっきりとした語りにも胸がスカッとしました。お話を聴いて、自分の子に今、必要なことがはっきり分かりました。いくつかやってみたい担任の先生に相談したいことが浮かびました。先生は自立課題はひまつぶしのもとの発展性のあるものとの使い分けとバリエーションを考えてくれています。私も協力したいとおもいました。

家庭の構造化とスケジュール、お話ノートはやらないといけないタイミングだと思いました。しんどいのがいやで避けていました。先生のお話で〇〇くんのお母さんのエピソードに涙が出そうでした。これからもポプラ会でお世話になりながら、細く長くへこたれずにやっていきたいと思えます。



息子(5歳・年中)の就学まであと1年。正直なところ、教育現場には少なからず不信感を持っていました。しかし、今回の講演会・交流会が、前向きに準備を進めようと、気持ちを切り替えるきっかけになりました。

辻山さんの自閉症児に対するアプローチは、小手先のテクニックではなく、しっかりとした「方法論」に基づいているというのが第一印象です。支援が必要な子供の療育も教育も、親や医療・福祉関係者、教師らがチームで取り組んでこそ効果が上がります。そのためには、「超絶の個人技」を持った専門家より、支援者チームが共有できる「方法論」こそが大切なのだ実感しました。また、繰り返し客観的評価の必要性を強調している点も好感が持てます。支援の精度向上に直結した取り組みにもかかわらず、客観的評価が疎かにされている現状に対し、問題提起になったのではないのでしょうか。

交流会では先輩のお母さん方のお話をうかがい、漠然とした不安が和らいだように思います。さまざまな問題を抱えた子供を、学校本来の目的である「教育」に、どうやって軟着陸させるか。わが家が本番を迎える前に、辻山さんや参加者のみなさんのお話を通して、貴重な経験ができたと感じています。

